

II 学科概要

1. 診療放射線学科の概要

1) 学科の方針

【ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）：DP】

診療放射線学科は、本学の建学の精神、基本理念、教育理念に基づき、在学中に下記の資質や能力を培った者に卒業を認め、学士の称号を与える。

1. 人権や多様な個性を尊重し、共生社会の実現に貢献する資質
2. 高い専門性と豊かな人間性を発揮して地域社会に貢献し、保健医療福祉の向上に寄与できる能力
3. 対象者のために、保健医療福祉に関わる人々と有機的な連携・協働ができる能力
4. 科学的根拠に基づき、放射線の画像診断と放射線治療を提供できる能力
5. 科学的思考をもって主体的に学修し、診療放射線学を発展させる能力

【カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）：CP】

診療放射線学科のディプロマ・ポリシーに基づき、科学的思考をもって主体的に学修する能力を養うため、講義、実験・実習、演習の組み合わせを用い、科目に適した形態の授業を編成する。

1. 人権や多様な個性を尊重し、共生社会の実現に寄与する資質を育成するために、基礎教育科目を配置する
2. 保健医療福祉に携わる一員として他職種と連携・協働できる能力を育成するために、「保健医療福祉と診療放射線」について学ぶ専門基礎科目を配置する
3. 科学的根拠に基づいた診療放射線の実践に必要な基礎的知識を修得するため、「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」、「保健医療における理工学的基礎並びに放射線の科学と技術」について学ぶ専門基礎科目を配置する
4. 高度で専門的な診療放射線の実践能力を育成するため、診療放射線検査法、放射線治療法、放射線安全管理法について学ぶ専門教育科目を配置する
5. 豊かな人間性と社会性を養うため、担任制度等による個別・少人数指導を重視した教育を行う

【アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）：AP】

診療放射線学科は、建学の精神と基本理念を理解し、教育理念を実践する意欲ある人材を求める。

1. 診療放射線技師を志している人
2. 診療放射線学を学ぶために必要な基礎学力のある人
3. 基礎的コミュニケーション能力を有している人
4. 思いやりの心を持ち、人の生命を尊ぶ心を持つ人
5. 知的好奇心を持ち、探究心と想像力で自ら学ぶ意欲を持つ人
6. 基本的生活態度が身につけており、心身の健康に気を配れる人

2) 教育目標

【教育目的】

建学の精神、教育理念の「人間尊重を基盤とした人間力を備えた医療人の育成」に基づき、以下の教育目的を掲げています。

放射線医療の高度化や多様化に対応するため、基礎的な知識と技能の習得に加えて、医療現場に携わる職業人として求められる幅広い視野と豊かな人間性、高い倫理観、的確な対人関係の形成や他者との協調と協働力を身につけた職業人を育成します。また、継続的な自己研鑽力や自主的に学び、考え、行動する研究能力を身につけた職業人を育成することを目的とします。

【教育目標—養成する人材像】

本学の教育理念および教育目的を具現化し、以下に掲げる特性を備えた診療放射線技師を育成します。

1. 生命の尊厳や人権を守り、人々の多様な価値観や意思を尊重できる。
2. 全人的理解を基盤とした人間関係を形成できる。
3. 科学的に裏付けされた専門的知識と技術で放射線診療を実践できる。
4. 保健医療福祉チームの一員として他職種と連携・協働できる。

3) 教育課程

(1) カリキュラムの特色と構成概念

診療放射線学科は、本学の教育理念に基づき、「幅広い知性と豊かな感性のもとで、人間を尊重する態度と高い倫理観、人間を統合的な存在として理解する能力、他者への共感的理解と人間関係形成能力、多様なチームとの連携・協働力、科学的思考と問題解決能力、継続的な主体的学修能力を授けるとともに、専門分野の基礎・基本となる知識および技術と専門職業人としての態度を教授する」ことを教育研究上の目的としています。

(2) 教育課程の編成

教育課程の編成は、教育目的を達成するための人材育成に必要な内容を授業科目として設定し、「基礎教育科目」、「専門基礎教育科目」、「専門教育科目」の三領域で編成しています。また、診療放射線技師の養成施設としての指定規則条件を充足しつつ、診療放射線学科で掲げた人材育成に必要な選択科目を配置しています。

教育課程の各概念の間には相互関係が存在することを前提に、「基礎教育科目」と「専門基礎教育科目」、「専門教育科目」の三領域に配置した各教育科目の内容が、有機的に関連性を持ち、体系的に学修できるように編成し、各領域における授業科目間の授業内容は、関連性と一貫性を保つよう設定しています。

なお、教育課程編成には、基礎教育科目→専門基礎教育科目→専門教育科目において、講義内容が順次理解できるように、内容の連続性と関連性を重視しています。教育科目の開講年次および前期、後期への配分については、これらのことを十分に考慮して配置しています。

(3) 教育課程進度表

1) 楔形配置

教育課程の進行は、「基礎教育科目」をベースに「専門基礎教育科目」、「専門教育科目」と学んでいきますが、相互に関連して学びを深めていくことを目的に楔形に配置しています。

放射線医学は「ヒト」を対象に研究する学問ですので、人間理解に必要な幅広い知性と豊かな感性を育て、学生自身の人間性を育てるための教科目は、「基礎教育科目」として低学年に配置し、人間に関する学際的な学問領域の教科目を設定しています。

専門職業人を育成するための教科目は、「専門基礎教育科目」、「専門教育科目」に設定し、診療放射線技師として必要な専門的知識はそれらの領域で学修します。学年が進むにしたがい、「専門教育科目」が増えていきますが、「基礎教育科目」と「専門教育科目」が関連付けて学修できるように、「専門基礎教育科目」を1年次から配置し、「基礎教育科目」も可能な限り、楔形で配置しています。

2) 学年の特徴

1年次では、基礎教育科目を配置し、人間理解の基礎となる学問的知識を得るとともに、学生個人の価値観や人間観を育て、科学的思考力や大学人として主体的・自律的に学ぶ姿勢を身に付けることを目標としています。同じく、1年次から「専門基礎教育科目」を配置しているのは、専門教育科目への導入と「基礎教育科目」と「専門教育科目」との関連性を確認しながら学ぶことで、今後の学修への関心を高め、明確な動機付けとなることを目的としているからです。

2年次では、「専門基礎教育科目」、「専門教育科目」の数が増え、「基礎教育科目」で学んだ知識を関連させ活用しながら、「専門教育科目」の基礎を修得することを目的としています。

3年次では、「専門教育科目」の講義・演習・実習をとおして、専門的知識を深め、最終学年における統合化に向けて準備することを目的としています。

4年次では、3年次までの学修に加え、さらなる実習で診療放射線領域の広がり学ぶとともに、卒業時の学修到達度と今後の目標や自己課題を明らかにすることを目的としています。

3) 臨床実習

臨床実習は、既修の理論と知識や技能を体験的に学ぶ学修であり、また、臨床実習の体験から、放射線医学の現象を意味付け、診療放射線を知として学ぶ学修でもあります。

「臨床実習Ⅰ」では、X線を使用した一般撮影をはじめ、CT、MRI、造影検査を通じて臨床の基本的な知識と技能に関する実践能力を身に付け、また、医療現場で患者と接しながら対人的な能力を体験的に学ぶ学修です。「臨床実習Ⅱ」では、臨床実習Ⅰの領域に加えて核医学検査分野と放射線治療分野の専門的な知識と応用能力を身に付ける学修の実習を配置しています。

4) 主体的学修

学修の主体は学生であることから、それぞれの授業科目において、学生自らが積極的に参加し、主体的に学修に取り組むことで自らの課題を達成していくこと、並びに学生の個性に応じて、多領域にわたり学問的興味や関心を持つことができることを目的に、演習の学修時間を多くしています。グループワークなどのチーム学修をとおして、学生相互に学びを深めるとともに、調整する能力や協働する能力、ディスカッション能力を育成することもねらいとしています。

Ⅲ 履修の概要

1. 履修方法

(1) 卒業要件総単位数

本学を卒業するためには、下記の表が示す単位数の修得が必要となります。

診療放射線学科

科目区分	基礎教育科目	専門基礎教育科目	専門教育科目	卒業要件
必修科目	10 単位	29 単位	63 単位	102 単位
選択科目	10 単位以上	7 単位以上	7 単位以上	24 単位以上
小 計	20 単位以上	36 単位以上	70 単位以上	126 単位以上

(2) 算定基準

大学で履修する授業科目には、それぞれ「単位」という一定の基準が定められています。1 単位とは、学生が1 科目について行う45時間（2 単位の場合は90時間）の学習活動を意味し、その学習活動とは授業と自習からなります。授業科目の1 単位あたりの時間数は、授業形態に応じた教育効果や自習時間等を考慮したものです。

〈1 単位あたりの授業時間数〉

講義・演習	15時間～30時間までの範囲で本学が定める時間の授業を持って1 単位
実験・実習	30時間～45時間までの範囲で本学が定める時間の授業を持って1 単位
1つの講義科目の中に講義、演習、実験、実習のうち、2つ以上を併用	1つの授業科目の中に 講義、演習、実験、実習のうち、2つ以上の方法の併用により行う授業については、組み合わせに応じ、30時間～45時間までの範囲で本学が定める時間の授業を持って1 単位としています。

(3) 単位の「修得」について

単位の「修得」は、「履修登録」した科目の所定の授業実施時間数の3分の2以上を出席し、定期試験を受験し合格することで、その科目の単位を修得することができます。

ただし、科目によっては、試験の成績にレポート（課題）の評価、授業の受講態度などが加味され、総合的に評価されます。

2. 履修科目

必ず履修しなければならない必修科目と各区分の中から指定された単位数以上を自由に選択できる選択科目を履修します。

(1) 基礎教育科目（必修科目10単位、選択科目19単位から10単位以上選択）

「人間と生活」必修科目2単位、選択科目10単位から5単位以上選択

生命・人間・社会等に関する幅広い学問領域について学び、自主的・自律的に学ぶ姿勢を身につけます。

「科学的思考の基礎」必修科目6単位、選択科目6単位から3単位以上選択

診療放射線学科の専門課程を学んでいく基礎となる探究心と科学的思考力を養います。

「語学」必修科目2単位、選択科目3単位から2単位以上選択

語学学習を通して他者とのコミュニケーションに必要なスキルを学びます。

(2) 専門基礎教育科目（必修科目29単位、選択科目13単位から7単位以上選択）

「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」必修科目13単位、選択科目4単位から2単位以上選択

診療放射線学を学ぶ上で必修の基礎知識である人体の構造と機能及び疾病の成り立ちを履修します。具体的には、解剖学、生理学、病理学、薬理学、衛生学などを学びます。

「保健医療福祉における理工学的基礎並びに放射線の科学及び技術」必修科目13単位、選択科目7単位から4単位以上選択

放射線、放射線の物質との相互作用、電気電子工学など放射線に関係する基礎的な教科を履修します。具体的には放射線物理学・化学・生物学、放射線計測学、電気・電子工学などを学びます。

「医療専門職の機能と役割」必修科目3単位、選択科目2単位から1単位以上選択

医療は多くの専門職種とのチーム医療として行われていることを学びます。

(3) 専門教育科目（必修科目63単位、専門教育科目全体の選択科目10単位から7単位以上選択）

専門教育科目は、専門基礎分野等で修得した内容を踏まえ、医療専門職として必要な専門的知識と技術を修得します。

「診療画像技術学」

ここには合計11科目があり、診療画像検査に関する検査技術、検査機器、検査実験などを学びます。必修科目16単位と選択科目1単位があります。

「画像診断学」

ここには合計6科目があり、画像解剖学、画像診断学の専門知識を学びます。必修科目8単位と選択科目2単位があります。

「核医学検査技術学」

ここには合計4科目があり、核医学検査に関する専門知識を学びます。必修科目6単位と選択科目1単位があります。

「放射線治療技術学」

ここには合計5科目があり、放射線治療に関する専門知識を学びます。必修科目6単位と選択科目1単位があります。

「医用画像情報学」

ここには合計5科目があり、医用画像に関する専門知識を学びます。必修科目6単位と選択科目1単位があります。

「放射線安全管理学」

ここには合計4科目があり、放射線管理に関する専門知識を学びます。必修科目4単位と選択科目1単位がある。

「医療安全管理学」

ここには必修の3科目があり、医療安全に関する専門知識を学びます。

「臨床実習」

臨床実習は必修の科目で、3学年の「臨床実習Ⅰ」4単位と4学年の「臨床実習Ⅱ」6単位があり臨床実習病院での実習となります。臨床実習は、医療の現場で臨床実習指導者から検査・治療について学びます。学内の講義で学んだ事も含めて実際の医療現場でどの様に行われているかを体験し、患者接遇や他の医療職種とのコミュニケーションについても学びます。

「総合科目」

総合科目は3科目があり全て選択科目ですが、専門教育科目の復習の内容になっており、履修した専門教育科目のより深い理解やスキルを身につける内容を学びます。臨床実習や国家試験に向けて専門領域の学修をします。

「卒業研究」

卒業研究は必修科目4単位の教科で、診療放射線学科で学んだ集大成として担当教員の指導の下に研究テーマを決め研究を進め最終的に卒業論文としてまとめます。また、卒業研究発表会においてプレゼンを行いお互いに研究内容を報告します。